

詩

なか はら ちゅう や  
**中原中也**



山口市  
(1907～1937)

提供：中原中也記念館

現在の山口市湯田温泉に中原医院の長男として誕生。文学を志して京都、東京へと移り、詩人として生活を送る。『四季』『歷程』『文学界』などの雑誌に詩を発表。生前唯一の詩集『山羊の歌』と、没後刊行された詩集『在りし日の歌』があり、ランボーほかフランス詩の翻訳も手がけた。山口への帰郷を望みながらも三十歳で鎌倉にて死去。魂に響く詩を数多く書き残した。近代詩人として文学史上に名を刻み、幅広い年代層に支持を得ている。  
(那須 香)

【主な著作】

詩集『山羊の歌』(文圃堂、昭和9年)

詩集『在りし日の歌』(創元社、昭和13年)

『新編中原中也全集』(角川書店、平成12年～16年)